

3課

生と死

1月 17 日

安息日午後

1月 10 日

暗証聖句

わたしにとては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。(ピリピ 1:21、口語訳)

わたしにとて、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。(フィリピ 1:21、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ(ピリピ)1:19~30、Iコリント 4:14~16、IIコリント 10:3~6、ヨハネ 17:17~19、ミカ 6:8、使徒言行録(使徒行伝)14:22

今週のテーマ

死は命の一部にすぎないとよく言われますが、それは嘘です。死は命の対極であり、命の敵です。車が壊れるように組み立てられていないように、死は命に組み込まれていませんでした。パウロは、キリストが「死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隸の状態にあった者たちを解放なさ(った)」[口語訳「死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隸となっていた者たちを、解き放つ」](ヘブ2:14、15)と力強く述べています。

パウロは、キリストのために死ぬ覚悟を決めていたものの、自分の死後の運命については確信を持っていました。それまでの間、彼にとって最も重要なことは、自分の命と死をもってキリストを称え、できるだけ多くの人に福音を宣べ伝えることでした。おそらくそれが、彼の名を冠した多くの書簡が残っている理由の一つでしょう。パウロは執筆を通して、彼自身が訪れたことのない場所も含め、多くの人や場所に福音を届けることができました。

人生は短く、神が私たちに与えられる年月の中で、神の国のために可能な限り大きな影響を与えることが極めて重要です。その影響の重要な部分の一つは、私たちが「信仰の一致」を促すことと関係しています。今週から見ていくように、この主題は、パウロがフィリピの信徒への手紙(ピリピ人への手紙)を書いた重要な理由の一つでした。

ヘブ 2:14、15 (新共同訳)

2:14 ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、
2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隸の状態にあった者たちを解放なさるためでした。

ヘブ 2:14、15 (口語訳)

2:14 このように、子たちは血と肉と共にあずかっているので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、
2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隸となっていた者たちを、解き放つためである。

日曜日 1月11日 「キリストが公然とあがめられるように」

【参考】口語訳「キリストがあがめられる」(フィリ[ピリ]1:20 参照)

問1 フィリピ(ピリピ)1:19、20 を読んでください。裁判の結果について、パウロはどういう期待を抱いていたのでしょうか。無罪放免になることよりも、何がもっと重要なことだと、彼は考えていましたか。

パウロは犯罪者ではありませんでしたが、投獄されたのはこれが初めてではなく、迫害も受けたことがありました。コ林ントの信徒に、彼はそれまでの苦しみを次のように詳しく述べています。「苦労したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。……しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、苦労し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともあります」〔口語訳「苦労したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、……幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった〕(IIコリ11:23~27)。

しかし、このような苦しみがパウロの最大の関心事であると思われないように、彼は直後にこう付け加えています。「このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかいな事、あらゆる教会についての心配事があります」〔口語訳「いろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある〕(IIコリ11:28)。

問2 Iコリント 4:14～16、Iテサロニケ 2:10、11、ガラテヤ 4:19、フィレモン(ピレモン)10 を読んでください。パウロは、自分が設立した教会やキリストのために勝ち取った人々と、どのような関係を持っていますか。

私たちを救うために何も惜しまれなかったイエスのように、パウロは仲間のために、「自分の持ち物を使い、自分自身を使い果た(す)」〔**口語訳「費用を使い、また、わたくし自身をも使いつく(す)」**〕(IIコリ12:15)ことをいといませんでした。しかし逆説的なことに、人の行いがイエスに似れば似るほど、ある人たちからは愛されなかったり、評価されなかったりします。「キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます」〔**口語訳「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」**〕(IIテモ3:12)。しかし、忠実なクリスチヤンこそ、神を賛美し、福音の真理を明らかにする最強の手段であることに変わりはありません(フィリ〔**ピリ**〕1:7と比較)。「長い間の不正な留置の間中、パウロが示した忍耐と快活と信仰は、不斷の説教となった」(『希望への光』1532ページ、『患難から栄光へ』第44章)。

【参考】英語テキストにある文

Look at how you live and how you treat people, especially people who don't treat you nicely. What kind of witness for Jesus do you present?

自分の生き方や人への接し方、特に自分に優しくしてくれない人々への対応を振り返ってみてください。あなたはどのようなイエスの証しを示していますか。

フィリ 1:19、20 (新共同訳)

1:19 というのは、あなたがたの祈りと、イエス・キリストの靈の助けとによって、このことがわたしの救いになると知っているからです。

1:20 そして、どんなことにも恥をかかず、これまでのよう今も、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。

IIコリ 11:23～28 (新共同訳)

11:23 キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。苦労したことはずつと多く、投獄されたこともずつと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。

ピリ 1:19、20 (口語訳)

1:19 なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・キリストの靈の助けとによって、この事がついには、わたしの救となることを知っているからである。

1:20 そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。

IIコリ 11:23～28 (口語訳)

11:23 彼らはキリストの僕なのか。わたしは気が狂ったようになって言う、わたしは彼ら以上にそうである。苦労したことはずつと多く、投獄されたこともずつと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。

11:25 鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂つたこともあります。

11:26 しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、

11:27 苦労し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べずにより、寒さに凍え、裸でいたこともあります。

11:28 このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。

Iコリ 4:14～16 (新共同訳)

4:14 こんなことを書くのは、あなたがたに恥をかかせるためではなく、愛する自分の子供として諭すためなのです。

4:15 キリストに導く養育係があなたがたに一万人いたとしても、父親が大勢いるわけではない。福音を通し、キリスト・イエスにおいてわたしがあなたがたをもうけたのです。

4:16 そこで、あなたがたに勧めます。わたしに倣う者になりなさい。

Iテサ 2:10、11 (新共同訳)

2:10 あなたがた信者に対して、わたしたちがどれほど敬虔に、正しく、非難されることのないようにふるまつたか、あなたがたが証しし、神も証ししてくださいます。

2:11 あなたがたが知っているとおり、わたしちは、父親がその子供に対するように、あなたがた一人一人に

ガラ 4:19 (新共同訳)

4:19 わたしの子供たち、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。

ピレ 10 (新共同訳)

10 監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことでの、頼みがあるのです。

IIコリ 12:15 (新共同訳)

12:15 わたしはあなたがたの魂のために

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂つたこともある。

11:26 幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあります。

11:28 なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある。

Iコリ 4:14～16 (口語訳)

4:14 わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさとすためである。

4:15 たといあなたがたに、キリストにある養育掛が一万人あったとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。

4:16 そこで、あなたがたに勧める。わたしにならう者となりなさい。

Iテサ 2:10、11 (口語訳)

2:10 あなたがたもあかしし、神もあかしして下さるように、わたしたちはあなたがた信者の前で、信心深く、正しく、責められるところがないように、生活をしたのである。

2:11 そして、あなたがたも知っているとおり、父がその子に対してするように、あなたがたのひとりひとりに対して、

ガラ 4:19 (口語訳)

4:19 ああ、わたしの幼な子たちよ。あなたがたの内にキリストの形ができるまでは、わたしは、またもや、あなたがたのために産みの苦しみをする。

ピレ 10 (口語訳)

10 捕われの身で産んだわたしの子供オネシモについて、あなたにお願いする。

IIコリ 12:15 (口語訳)

12:15 そこでわたしは、あなたがたの魂

大いに喜んで自分の持ち物を使い、自分自身を使い果たしもしよう。あなたがたを愛すれば愛するほど、わたしの方はますます愛されなくなるのでしょうか。

Ⅱテモ 3:12 (新共同訳)

3:12 キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。

フィリ 1:7 (新共同訳)

1:7 わたしがあなたがた一同についてこのように考えるのは、当然です。というのは、監禁されているときも、福音を弁明し立証するときも、あなたがた一同のことを、共に恵みにあずかる者と思って、心に留めているからです。

のためには、大いに喜んで費用を使い、また、わたし自身をも使いつくそう。わたしがあなたがたを愛すれば愛するほど、あなたがたからますます愛されなくなるのであろうか。

Ⅱテモ 3:12 (口語訳)

3:12 いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。

ピリ 1:7 (口語訳)

1:7 わたしが、あなたがた一同のために、そう考えるのは当然である。それは、わたしが獄に捕われている時にも、福音を弁明し立証する時にも、あなたがたをみな、共に恵みにあずかる者として、わたしの心に深く留めているからである。

月曜日 1月 12日 死ぬことは利益

【参考】口語訳「死ぬことは益」(フィリ[ピリ]1:21 参照)

気づいていないかもしれません、私たちはみな、特に信者として、私たちの周囲で、また私たち自身のうちでも、荒れ狂う大争闘に巻き込まれています。私たちは誰もが、何らかの形でこの宇宙的な争いの現実を経験しており、いつ、どのように死ぬにせよ、死ぬ日までそれを経験し続けるでしょう。

問3 Ⅱコリント 10:3~6 を読んでください。私たちが行う靈的な戦いの根底にあるものは何であり、私たちの武器は何でしょうか。

最も命に関わる靈的武器は、良し悪しを問わず、思想(考え)です。サタンは、批判、裏切り、恥ずかしめ、恐怖、仲間からの圧力など、クリスチヤンが決して用いるべきではない多くの同様の手段を使います。その代わりに、私たちは、愛、慈悲、平和、優しさ、忍耐、親切、自制心を用いるべきです。賢明に用いられるなら、私たちの最強の武器は、聖靈が振るわれる剣、すなわち「神の言葉」【口語訳「神の言」】(エフェ[エペ]6:17)です。なぜなら、人の心に真理をもたらすことができるのは、神だけだからです。私たちは、神がご自分の目的を達成するために用いられる道具にすぎません。

問4 フィリピ(ピリピ)1:21、22 を読んでください。特に大争闘という文脈の中で、私たちはパウロの主張をどう理解すればよいのでしょうか。

戦いは靈的なものであるため、私たちは思想や価値観の戦いの中にいます。しかし、キリストは私たちのために十字架で勝利を収めてくださり、私たちがキリストとつながっている限り、たとえ殺されても、私たちは決して敗北することはありません。パウロは、この地上で何が起ころうと、それがいかに不当であろうと、自分の命を差し出しました。なぜなら、彼は自分の命と将来を天の法廷に委ねていたからです。

私たちクリスチャンは、自分の権利のために戦うのではなく、正しいことのために戦うべきです。「力が正義を生む」ではなく、「正義が力を生む」のです。神の御心に従うことは名誉なことであり、実際、それこそが私たちの直面する戦争で勝利する唯一の方法です。言うまでもなく、パウロがフィリピ(ピリピ)2章で明らかにしているように、イエスは神の御心に従う典型的な模範です。

【参考】英語テキストにある文

In what ways, right now, are you experiencing the reality of the great controversy? How can you draw comfort and strength from knowing that Christ has won the victory for us already?

あなたは今、どのような形で大闘争の現実を経験していますか。キリストがすでに私たちのために勝利を勝ち取ってくださっていることを知ることで、どのように慰めと力を得ることができますか。

Ⅱコリ 10:3~6 (新共同訳)

10:3 わたしたちは肉において歩んでいますが、肉に従って戦うではありません。

10:4 わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。わたしたちは理屈を打ち破り、

10:5 神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができます。

エフェ 6:17 (新共同訳)

6:17 また、救いを兜としてかぶり、靈の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。

フィリ 1:21, 22 (新共同訳)

1:21 わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。

1:22 けれども、肉において生き続けければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。

Ⅱコリ 10:3~6 (口語訳)

10:3 わたしたちは、肉にあって歩いてはいるが、肉に従って戦っているのではない。

10:4 わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、

10:5 神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 そして、あなたがたが完全に服従した時、すべて不従順な者を処罰しようと、用意しているのである。

エペ 6:17 (口語訳)

6:17 また、救のかぶとをかぶり、御靈の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

ピリ 1:21, 22 (口語訳)

1:21 わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。

1:22 しかし、肉体において生きていることが、わたしにとっては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。

フィリ 2:1~11 (新共同訳)

2:1 そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“靈”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、

2:2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。

2:3 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、

2:4 めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようと思はず、

2:7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、

2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

2:9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

2:10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、

2:11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

ピリ 2:1~11 (口語訳)

2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御靈の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄心からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としない。

2:4 おのの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていだいているのと同じ思いを、あなたがたの間で互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思はず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

火曜日 1月13日 確信を持つ

【参考】新共同訳「確信しています」、口語訳「確信している」(フィリ(ピリ)1:25 参照)

問5 フィリピ(ピリピ)1:23、24 を読んでください。パウロはどういう意味で、「去つて、キリストと共にい(る)」ほうが「はるかに望ましい」と言ったのでしょうか。

この箇所は、昔からひどく誤解されてきました。フィリ(ピリ)1:19~30においてパウロは、生きることと死ぬことの対比を論じています。クリスチャンはキリストのために生き、キリストのために死ぬことさえあります。その意味で、死は「利益」〔口〕

語訳「益」](同1:21)です。私たちの証しがそれほど強力で説得力のあるものとなるからです。人は、その信仰のために死をいとわないとき、疑いなく信じていると言えるでしょう。

しかし、私たちは、死者が本当に死んでいるということを認識しなければなりません。彼ら(死者)は「もう何ひとつ知らない」[口語訳「何事をも知らない」](コヘ〔伝道の書〕9:5)のです。彼らは復活するまで墓の中で休んでいます(ヨハ5:28、29参照)。だからこそ、イエスは死んだラザロについて、「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く」[口語訳「わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起しに行く」](同11:11)と言われたのです。

もし人が死ぬとすぐに天国へ行くとしたら、ラザロの場合はどうだったか、想像してみてください。ラザロが楽園ではしゃいだ4日後、天使が「悪い」知らせを持ってやって来ます。「ラザロ、残念だが、イエスはあなたを地上に呼び戻そうとしておられます。あなたはここにとどまることができません」

誤りを論理的に突き詰めると、それがいかに間違っているかがわかります。死は、夢のない眠りのようなもので、忠実な信者は、イエスの再臨の際に目覚めさせられ、それから、生きている聖徒たちと共に引き上げられ、永遠にイエスと共にいるために天へ連れて行かれるのです(I テサ4:16、17参照)。

パウロがキリストと共にいるために現世(この世)から「去(る)」というのは、「死者の中からの復活に達(する)」[口語訳「死人のうちからの復活に達(する)」](フィリ〔ピリ〕3:11)ために、キリストと共に苦しみ、死ぬこと(Ⅱテモ4:6)を意味しています。パウロはまた、自分が死んで目を閉じたあと、次に気づく瞬間、瞬きするような間に、イエスにお会いすること、またイエスがすべての神の民と共に、彼を自ら用意された場所へ連れて行ってくださることを間違いなく知っていました(ヨハ14:3、I コリ2:9)。

パウロはキリストのために死ぬ覚悟を持ちながらも、自分が「肉にとどまる」[口語訳「肉体にとどまっている」](フィリ〔ピリ〕1:24)ほうがフィリピ(ピリピ)の信徒にとってよいことも知っていました。興味深いことに、クリスチャンにとって、キリストのために生きることと死ぬことのどちらがよいかという問い合わせるのは、必ずしも簡単ではありません。パウロは、「この二つのことの間で、板挟みの状態」[口語訳「これら二つのもの間に板ばさみになっている(の)」](同1:23)でした。

【参考】英語テキストにある文

Again, however much no one wants to die, have you ever thought about how the moment you die, the next thing you will know is the return of Christ? How might that thought help you understand Paul's thinking here?

繰り返しますが、誰も死を望まないとはいって、死んだ瞬間に次に気づくことはキリストの再臨だということを考えたことはありますか。その考えは、ここでパウロが何を考えているのか理解するのにどう役立つでしょうか。

フィリ 1:19～30 (新共同訳)

1:19 というのは、あなたがたの祈りと、イエス・キリストの靈の助けとによって、このことがわたしの救いになると知っているからです。

1:20 そして、どんなことにも恥をかかず、これまでのように今も、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。

1:21 わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。

1:22 けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。

1:23 この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。

1:24 だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です。

1:25 こう確信していますから、あなたがたの信仰を深めて喜びをもたらすように、いつもあなたがた一同と共にいることになるでしょう。

1:26 そうなれば、わたしが再びあなたがたのもとに姿を見せるとき、キリスト・イエスに結ばれているというあなたがたの誇りは、わたしゆえに増し加わることになります。

1:27 ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの靈によってしっかりと立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、

1:28 どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。このことは、反対者たちに、彼ら自身の滅びとあなたがたの救いを示すものです。これは神によることです。

ピリ 1:19～30 (口語訳)

1:19 なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・キリストの靈の助けとによって、この事がついには、わたしの救となることを知っているからである。

1:20 そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。

1:21 わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。

1:22 しかし、肉体において生きていることが、わたしにとっては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。

1:23 わたしは、これら二つのものの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。

1:24 しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。

1:25 こう確信しているので、わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。

1:26 そうなれば、わたしが再びあなたがたのところに行くので、あなたがたはわたしによってキリスト・イエスにある誇を増すことになる。

1:27 ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの靈によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、

1:28 かつ、何事についても、敵対する者どもにろうばいさせられないでいる様子を、聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救のしりであって、それは神から來るのである。

1:29 まり、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。

1:30 あなたがたは、わたしの戦いをかつて見、今またそれについて聞いています。同じ戦いをあなたがたは戦っているのです。

コヘ 9:5 (新共同訳)

9:5 生きているものは、少なくとも知っている/自分はやがて死ぬ、ということを。しかし、死者はもう何ひとつ知らない。彼らはもう報いを受けることもなく/彼らの名は忘れられる。

ヨハ 5:28, 29 (新共同訳)

5:28 驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、

5:29 善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来るのだ。

ヨハ 11:11 (新共同訳)

11:11 こうお話しになり、また、その後で言われた。「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く。」

I テサ 4:16, 17 (新共同訳)

4:16 すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、

4:17 それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。

フィリ 3:11 (新共同訳)

3:11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

II テモ 4:6 (新共同訳)

4:6 わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。

ヨハ 14:3 (新共同訳)

14:3 行ってあなたがたのために場所を用

1:29 あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じることだけではなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。

1:30 あなたがたは、さきにわたしについて見、今またわたしについて聞いているのと同じ苦闘を、続いているのである。

伝 9:5 (口語訳)

9:5 生きている者は死ぬべき事を知っている。しかし死者は何事をも知らない、また、もはや報いを受けることもない。その記憶に残る事がらさえも、ついに忘れられる。

ヨハ 5:28, 29 (口語訳)

5:28 このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、

5:29 善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう。

ヨハ 11:11 (口語訳)

11:11 そう言わされたが、それからまた、彼らに言われた、「わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起しに行く。」

I テサ 4:16, 17 (口語訳)

4:16 すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、

4:17 それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。

ピリ 3:11 (口語訳)

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

II テモ 4:6 (口語訳)

4:6 わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。

ヨハ 14:3 (口語訳)

14:3 そして、行って、場所の用意ができ

意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのものとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。

Iコリ2:9 (新共同訳)

2:9 しかし、このことは、「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかつたことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」と書いてあるとおりです。

たならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

Iコリ2:9 (口語訳)

2:9 しかし、聖書に書いてあるとおり、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかつたことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。

水曜日

1月14日 一致してしっかり立つ(堅く立つ) ※フィリ(ピリ)1:27参照

イエスが弟子たちのためにささげられた最後の祈り〔ヨハネ17章〕は、「一致」という一つの重要な主題で特徴づけられています。イエスは十字架の彼方〔かなた〕に、父なる神との再会や私たちとの再会を見ておられました。「父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におさせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです」〔口語訳「父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さって、わたしに賜わった栄光を、彼らに見させて下さい」〕(ヨハ17:24)。イエスは父なる神に、ご自分の子らを守り、「わたしたちのように、彼らも一つと」〔口語訳「わたしたちが一つであるように、彼らも一つに」〕(同17:11)ならせてくださいと祈られました。また、不一致がもたらす悲惨な結果を強調されました。不一致は、多くの人が信じない理由となるからです。この短い祈りの中で、イエスは2回、私たちと父なる神との一致を強調しておられます。それは、「世(が)……信じるようになる」〔口語訳「世が信じるようになる」〕ためであり、「あなたがわたしをお遣わしになったこと……を、世が知るため」〔口語訳「あなたがわたしをつかわし……たことを、世が知るため」〕でした(同17:21、23)。

問4 フィリピ(ピリピ)1:27を読み、ヨハネ17:17~19と比較してください。イエスもパウロも、教会の一致には何が欠かせないと言っていますか。

フィリピ(ピリピ)1:27で、「ふさわしい生活を送りなさい」〔口語訳「ふさわしく生活しなさい」〕と訳されているギリシア語は「ポリテオマイ」で、「市民として生きる」という意味です。それは、地上の国の市民としてではなく、天上の国の市民として生きるということです。山上の説教は、天の父の子どもであり、神の国の一員であるはどういうことかを美しく描いています。彼らは、心が貧しく、柔軟で、義に飢え渴き、憐れみ深く、心が清く、平和を実現し、打たれていない頬をも向け、敵を愛し、

呪う人を祝福し、憎む人に善を行います。要するに、「正義を行い、慈しみを愛し/へりくだって神と共に歩む」〔口語訳「ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩む」〕(ミカ6:8)のです。

そのような人に腹を立てたり、怒ったりするのは難しいことですが、本当にそうでしょうか。私たちは時に、あまりにも善良に見える人に反感を抱くことがあります。彼らをけなしたり、弱点を見つけて、善良でないことを証明しようしたり、そうすることで自分をよりよく見せようとする誘惑に駆られることがあります。そうではなく、私たちがもっと愛に満ち、もっと寛大で、もっと慈悲深く、もっと謙虚になるにはどうすればいいかを考えてみませんか。

教会の不一致は、詰まるところ、しばしば高慢〔pride〕から生じます。「高慢と世俗的な野心が大切にされてきたため、キリストの精神は去り、競争、不和、争いが入り込み、教会を混乱させ、弱体化させてきた」(『教会への証』第5巻 240、241ページ、英文)。私たちは、イエスの謙遜と柔軟を学ぶことが重要なのです。

【参考】英語テキストの最終段落の文

How crucial that we each learn the humility and meekness that Jesus modeled for us!
What a different church we would have, wouldn't we?

私たち一人ひとりが、イエスが示された謙遜と柔軟さを学ぶことは、なんと重要なことでしょうか！そうすれば、私たちの教会はまったく違ったものになるでしょう、そう思いませんか。

【参考】—Testimonies for the Church, vol. 5, pp. 240, 241

“As pride and worldly ambition have been cherished, the spirit of Christ has departed, and emulation, dissension, and strife have come in to distract and weaken the church.”
How crucial that we each learn the humility and meekness that Jesus modeled for us!
What a different church we would have, wouldn't we?

ヨハ 17:1～26 (新共同訳)

17:1 イエスはこれらのこと話を聞いてから、天を仰いで言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。

17:2 あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができるのです。

17:3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになつたイエス・キリストを知ることです。

17:4 わたしは、行うようにとあなたが与えてくださつた業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。

22

ヨハ 17:1～26 (口語訳)

17:1 これらのこと語り終えると、イエスは天を見あげて言われた、「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。

17:2 あなたは、子に賜わつたすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになつたのですから。

17:3 永遠の命とは、唯一の、まことの神でありますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。

17:4 わたしは、わたしにさせるためにお授けになつたわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。

17:5 父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。

17:6 世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。

17:7 わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。

17:8 なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。

17:9 彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。

17:10 わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。

17:11 わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。

17:12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。

17:13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことと語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

17:14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。

17:15 わたしがお願いするのは、彼らを

17:5 父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。

17:6 わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。

17:7 いま彼らは、わたしに賜わったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。

17:8 なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。

17:9 わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためにではなく、あなたがわたしに賜わった者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。

17:10 わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

17:11 わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。

17:12 わたしが彼らと一緒にいた間は、あなたからいただいた御名によって彼らを守り、また保護してまいりました。彼らのうち、だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅びました。それは聖書が成就するためでした。

17:13 今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことと語るのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります。

17:14 わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものでないよう、彼らも世のものではないからです。

17:15 わたしがお願いするのは、彼らを

世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

17:16 わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。

17:17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。

17:18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。

17:19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

17:20 また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願ひします。

17:21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人の一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。

17:22 あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

17:23 わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。

17:24 父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におさせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。

17:25 正しい父よ、世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っており、この人々はあなたがわたしを遣わされたことを知っています。

17:26 わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあ

世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。

17:16 わたしが世のものでないのように、彼らも世のものではありません。

17:17 真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。

17:18 あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。

17:19 また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

17:20 わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願ひいたします。17:21 父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。

17:22 わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。

17:23 わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。

17:24 父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さって、わたしに賜わった栄光を、彼らに見させて下さい。

17:25 正しい父よ、この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知り、また彼らも、あなたがわたしをおつかわしになったことを知っています。

17:26 そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下

り、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」

フィリ 1:27 (新共同訳)

1:27 ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの靈によってしっかり立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、

ヨハ 17:17～19 (新共同訳)

17:17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。

17:18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。

17:19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

ミカ 6:8 (新共同訳)

6:8 人よ、何が善であり/主が何をお前に求めておられるかは/お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し/へりくだって神と共に歩むこと、これである。

さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにあるためあります。」

ピリ 1:27 (口語訳)

1:27 ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの靈によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、

ヨハ 17:17～19 (口語訳)

17:17 真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。

17:18 あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。

17:19 また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

ミカ 6:8 (口語訳)

6:8 人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いくつしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。

木曜日 1月 15 日 一致し、恐れない

問7 フィリピ(ピリピ)1:27～30 を読んでください。私たちの一一致と「福音の信仰のために共に戦う」[口語訳「福音の信仰のために力を合わせて戦(う)」]ことは、恐れないと、いかに関係していますか。

サタンの戦略は、分裂と征服です。不一致は致命的です。イエスは、「家が内輪で争えば、その家は成り立たない」[口語訳「もし家が内内で分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう」](マコ3:25)と言われました。これは単純な原則ですが、サタンは、私たちがこの原則を忘れる 것을 喜びます。私たちの一一致は、聖書の預言の残りの者(口語訳:「残りの子ら」)(黙12:17)として、私たちが「永遠の福音」を「あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族」[口語訳「あらゆる国民、部族、国語、民族」](同14:6)に宣べ伝えるという預言的役割を果たすことを可能にするのに役立ちます。神から与えられたこのメッセージを広めるという使命を果たすには、一致が不可欠で

あり、ヨハネ17章のイエスの祈りは、一致のための最も重要な鍵の一つとして、神の御言葉の「真理」を強調しています(ヨハ17:17, 19)。したがって、私たちのメッセージは、使命や一致から切り離すことができません。これら三つは、共に立つか、共に倒れるかです。これら三つの鍵の一つでも欠ければ、成功することはありません。しかし、私たちが三つすべてを揃えていれば、恐れることはありません。反対に遭っても「たじろぐ」[口語訳「ろうばいさせられるる」](フィリ[ピリ]1:28)必要はありません。サタンは敗北した敵です。たとえ、信仰のために処刑されたとしても、私たちが「善いことに熱心であるなら」[口語訳「善に熱心であれば」](I ペト[ペテ]3:13)、何も私たちを傷つけることはできません。悪魔は、神の真理の前進を止めることができないのでです。

問8 以下の聖書の箇所を読み、共通の主題を簡単にまとめてください (マタ 10:38、使徒 14:22、ロマ 8:17、II テモ 3:12)。

この堕落した世界における人生は、「最善」の人々にとっても厳しいものです。ヨブは義人でした。聖書は、彼が「無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた」[口語訳「全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった」](ヨブ1:1)と言っています。それにもかかわらず、一夜にして災難がヨブとその家族を襲ったのです。個人的な経験によって、あるいは他人の身に起こったことを見て、この世の人生は断崖絶壁の上に生きているようで、いつ崖の縁から落ちてしまうかわからないものだと学んだことのない人がいるでしょうか。苦しみは、程度の差はあれ、私たち誰もが経験するものです。しかし結局のところ、キリストのために苦しむほうが、ほかの何かのために苦しむよりもよいのです。

【参考】英語テキストにある文

What hope, what comfort, should we, as Christians, have amid our suffering?

私たちクリスチャンは、苦しみの中にあっても、どんな希望と慰めを持つべきでしょうか。

フィリ 1:27～30 (新共同訳)

1:27 ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの靈によってしっかり立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、
1:28 どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。

ピリ 1:27～30 (口語訳)

1:27 ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの靈によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、
1:28 かつ、何事についても、敵対する者どもにろうばいさせられないでいる様子

このことは、反対者たちに、彼ら自身の滅びとあなたがたの救いを示すものです。これは神によることです。

1:29 つまり、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。

1:30 あなたがたは、わたしの戦いをかつて見、今またそれについて聞いています。その同じ戦いをあなたがたは戦っているのです。

マコ 3:25 (新共同訳)

3:25 家が内輪で争えば、その家は成り立たない。

黙 12:17 (新共同訳)

12:17 龍は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った。

黙 14:6 (新共同訳)

14:6 わたしはまた、別の天使が空高く飛びのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、

ヨハ 17:17、19 (新共同訳)

17:17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。

17:19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

I ペテ 3:13 (新共同訳)

3:13 もし、善いことに熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

マタ 10:38 (新共同訳)

10:38 また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。

使徒 14:22 (新共同訳)

14:22 弟子たちを力づけ、「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。

ロマ 8:17 (新共同訳)

8:17 もし子供であれば、相続人でもあり

を、聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救いのしるしであって、それは神から來るのである。

1:29 あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じることだけではなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。

1:30 あなたがたは、さきにわたしについて見、今またわたしについて聞いているのと同じ苦闘を、続いているのである。

マコ 3:25 (口語訳)

3:25 また、もし家が内輪で分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。

黙 12:17 (口語訳)

12:17 龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。

黙 14:6 (口語訳)

14:6 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

ヨハ 17:17、19 (口語訳)

17:17 真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。

17:19 また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

I ペテ 3:13 (口語訳)

3:13 そこで、もしあなたがたが善に熱心であれば、だれが、あなたがたに危害を加えようか。

マタ 10:38 (口語訳)

10:38 また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない。

使徒 14:22 (口語訳)

14:22 弟子たちを力づけ、信仰を持ちつづけるようにと奨励し、「わたしたちが神の国にはいるのには、多くの苦難を経なければならない」と語った。

ロマ 8:17 (口語訳)

8:17 もし子であれば、相続人である。

ます。神の相続人、しかもキリストと共に相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

Ⅱテモ 3:12 (新共同訳)

3:12 キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。

ヨブ 1:1 (新共同訳)

1:1 ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。

神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。

Ⅱテモ 3:12 (口語訳)

3:12 いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。

ヨブ 1:1 (口語訳)

1:1 ウツの地にヨブという名の人があった。そのひととなりは全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった。

金曜日 1月16日 さらなる研究

「拷問台や火あぶりの柱、土牢から、地のほら穴から、殉教者の勝利の叫びがパウロの耳に聞こえてくる。彼は、忠実な人々が、たとえ欠乏しても、悩まされ苦しめられても、なお恐れなく厳粛に信仰をあかしし、『わたしは自分の信じてきたかたを知って』いると言うのを聞く。信仰のために自分の命をささげる人々は、自分たちの信じてきたお方こそ完全に救うことができるのであると、世に向かって宣言しているのである」(『希望への光』1551ページ、『患難から栄光へ』第50章)。

「キリスト教会において、今日ほど、信仰が大きく分裂した時はなかった。初代教会において、一致を保つために〔使徒、預言者、福音宣教者(伝道者)、牧者、教師(エフェ[エペ]4:11～13)の〕賜物が必要であったならば、今日、その一致の回復のためには、なおさら必要なことであろう!そして、最後の時代に、教会の一致を回復することが神の目的であることは、預言が明らかに示していることである。見張り人は、目と目を相合させて、主がシオンに帰られるのを見ると約束されている。また終わりの時に、賢い者は悟ると約束されている。これが成就するときに、神が賢い者と見なされるすべての者の中に信仰の一致が起こる。なぜなら、実際に正しく理解する者たちは、必然的に同様の理解に達するはずだからである。……

「このように考えると、ここで預言されている教会の完全な状態というのは、まだ将来のことであることは明白である。したがって、これらの賜物は、まだその目的を果たしていないのである」(R·F·コットレル「序論」、『初代文集』復刻版 139、140ページ)。

話し合いのための質問

- ① R·F·コットレルの上記の引用文を踏まえて、聖霊が今日の神の教会に一致をもたらすためには、何が必要なのでしょうか。預言の賜物を通して与えられた助言を実践することは、教会の一致にとって、どれほど重要でしょうか。

- ② パウロや、すでに死んでしまったほかのクリスチャンが、今、天国で「キリストと共に」いると信じている友人に對して、あなたは死に関する聖書の教えをどのように説明しますか。
- ③ この世の苦しみという恐ろしい現実を、どう理解すればよいのでしょうか。なぜ大争闘のモチーフは、そのすべてを理解するうえで非常に役立つのでしょうか。なぜ私たちは、十字架上のイエスが最終的に父なる神の愛の最大限のあらわれであると捉え、最悪の時でさえ、イエスを信頼することを学ばなければならないのでしょうか。

24

エフェ 4:11～13 (新共同訳)

4:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。

4:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、

4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

エペ 4:11～13 (口語訳)

4:11 そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

4:12 それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。